「南から来た火山の贈りもの」

伊豆ジオ NEWSLETTER

伊豆半島ジオパーク推進協議会では、冒険・旅・教育の伊豆半島をより多くの方々に紹介し、南洋の火山島に起源をもち、フィリピン海プレートとともに北上衝突し現在の半島になった伊豆のダイナミックで、地学的にも非常にユニークな歴史を、訪れる皆さんに理解してもらう「ジオ観光」を推進しています。伊豆ジオニュースレッターでは、我々の活動、今までの歩み、現在力を入れていることやこれから目指す目標紹介をはじめ、伊豆半島における大地の遺産、現在も活発に続く火山活動、そしてこのような≪生きた大地≫の活動により保たれる地形、生態系、人間文化の多様性を多面的に検証していきます。「南から来た火山の贈りもの」の上で生活・研究・体験している私たちから、地域外の皆さん、そして海外の仲間たちに向けた、「伊豆の大地の便り」です。

ご挨拶

伊豆半島推進協議会会長　伊東市長
佃 弘巳

日本ジオパーク認定後、ジオパーク構想を通して更なる伊豆半島内の地域づくり（持続可能な社会）を推進するため、住民の皆様をはじめ認定ガイドの皆様、関係者の皆様にご尽力いただきましたこと、この場をおかりして御礼申し上げます。本年は、世界ジオパークネットワーク加盟に向け、日本ジオパーク委員会から推薦をいただくための大切な年となります。

伊豆半島にある「すばらしい遺産」、「大地の恵み」にさらに磨きをかけるため、伊豆半島の市町が一丸となって活動を推進してまいります。

関係者の皆様におかれましては、引き続きジオパーク活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、健やかで幸多き年となりますようご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

世界認定への楽しくも険しい道程

伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問
静岡大学防災総合センター教授
小山 真人

2014 年春、当初のスケジュール通り、伊豆半島ジオパークは世界認定への推薦申請書を提出します。ここまで来られたのは、ひとえに推進協議会事務局、認定ジオガイドのみなさん、ジオパークを支える住民や関係者など、多くの方々の献身的なご努力やご支援の賜物であり、深い感謝の意を表したいと思います。

しかしながら、今後の道程はこれまで以上に厳しいものとなるでしょう。ジオパーク発祥の地であるヨーロッパの国々の世界認定状況を見ますと、イタリアの９地域が最多です。日本国内の認定数が欧州をさしおいて二桁になることは、現状ではありえないでしょう。ご存知のように日本国内の世界ジオパーク数はすでに６に達したので、空席はあと３つ、しかもそのひとつは客観的にみて三陸地域の予約席でしょうから、残りの椅子は２つしかないわけです。ここに食い込むためには、これまでよりも一層レベルの高い活動と、それを世界にアピールする戦略が必要と考えています。

伊豆半島ジオパーク推進協議会：今までの歩み

伊豆半島ジオパーク推進協議会は、伊豆半島の地質的な遺産とそれに由来する自然・文化・地域産業などを保全、研究することを目的とします。また、これらの遺産や環境の評価を高め、世界ジオパークネットワークへの加盟を目指します。更に、観光・教育・生活の面からでも、これらの遺産を継続的に活かし、持続可能な地域振興に寄与することも目的としています。

当推進協議会は、平成 22 年 2 月 22 日に、伊豆半島 6 市 6 町首長会議で伊豆半島ジオパーク構想の推進を合意したことに由来します。その後、同 6 月 7 日に、伊豆半島ジオパーク研究会を開催し、7 月 1 日に、伊豆半島ジオパーク構想指針書の作成を静岡大学に委託し、この指針書は、平成 23 年 1 月に完成しました。3 月 28 日伊豆半島ジオパーク推進協議会設立総会が開催され、会長に佃弘巳伊東市長が就任するとともに、4 月 1 日には、伊東市観光課内において、推進協議会事務局が開設されました。そして、同 7 月 1 日に、推進協議会の公式ホームページを開設しました。平成 24 年 4 月 25 日、世界ジオパークの認定に向け、日本ジオパークネットワーク（JGN） に、加盟申請書を提出しました。同 9 月 4−5 日、日本ジオパーク委員会（JGC）の現地審査が行われ、24 日に伊豆半島は、正式に日本ジオパークとして認定されました。この認定書は、同 11 月高知県の室戸ジオパークにおいて行われた第 3 回日本ジオパーク全国大会で授与されました。

当協議会と地域との連携で実施した新しい観光設備として、25 年 4 月 6 日に、下田市龍宮窟遊歩道をオープンし、25 年 7 月 7 日に天城ビジターセンターを開設しました。そして、25 年 12 月には、清水町、長泉町の両地域を、伊豆半島ジオパークの新たなエリアにするべく日本ジオパーク委員会(JGC) に申請を行い、承認を頂きました。協議会開設から今日まで、地域の住民と密接な連携を図り、ジオガイドの養成、ジオパークに関する看板の設置、情報の収集をしながら、伊豆半島の地質、地形、自然景観、文化、地域産業や生活の多面的な研究を進めています。今後は、これらの活動と並行して、国内外の研究者、日本や世界各地のジオパークと交流を進めていきます。また、地域の住民におけるジオパークに関する意識の浸透、伊豆半島の構成市町の教育、行政、観光、産業機関との連携を図りながらさらなる発展を目指して活動をして参ります。

推進協議会事務局のメンバーのプロファイル：私たちにとっての伊豆半島ジオパーク

事務局長　堀野順章　伊東市観光課長兼務

伊豆半島ジオパーク構想当初から事務局として係っています。観光課長という職責上、ジオパークの活動をいかに観光に生かすかを常に考えていますが、なかなか簡単なものではありません。これからも伊豆半島の各地の素晴らしいジオサイトを観光資源として磨き上げ発信することで、多くの観光客の皆様に「来て良かった、また来たい」と言ってもらえるジオパークにしていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いします。

吉川　馨　事務局主査

富士山のふもとで生れ伊豆半島の学校に通い、学生時代をふくめて約 9 年間東京で生活して静岡県に戻ってきました。県職員になってからも 2 年間下田の総合庁舎で勤務して、温泉・食・人などなど、この地域からたくさんの恵みとサポートを受けて、今の自分が形成されました。ジオパークの活動を通じて、大好きなこの地域に少しでも恩返しができればと思っています。

鈴木　雄介　専任研究員

静岡県三島市出身。専門は火山地質・防災で、これまでは地質調査や測量を行う会社で、火山防災を中心とした仕事をしてきました。足もとにある大地から地域のことを見直し、風土にあった持続的な地域づくりをしていこうというジオパークの理念に共感し、現職に至ります。今は、研究員として専門家と地域をつなぐ役割を担っています。

石井　千春　事務局主査

平成２３年４月の事務局設置以来ジオパークの推進に携わり、３年となります。
私自身「ジオパークってなあに？」と言うところから始まり、伊豆半島にはまだまだ知らないことがたくさん溢れていて、日々新しい発見をしながら楽しく仕事をさせていただいています。このジオパークの楽しさをより多くの方に知っていただきたく、情報発信をしていきたいと思います。

松本　由奈　事務局職員

静岡県伊東市出身。伊豆半島は温泉や海の幸、山の幸、文学などさまざまな魅力がありますが、ジオの視点を土台とすると、文化や生物は全て理由があって生まれてくることを実感でき、ジオパークの活動に面白みを感じています。
ジオパークという言葉はカバーする意味が広く、地質学的な説明ばかりを読むと難しいですが、美しい地層の模様を楽しんだり、特有の環境で育まれた特産品を堪能したり、文学作品の描写と実際の地質景観を比較したりすることも既にジオパークという概念を楽しんでいることだと思っています。育った伊豆の風景が、ただの綺麗な景色としてではなく、大地の成り立ちやそこに育まれる人々の営みも含めて味わい、学べる場所になっていくジオパークの視点をもっと深めていきたいです。

藤江　雄也　事務局職員

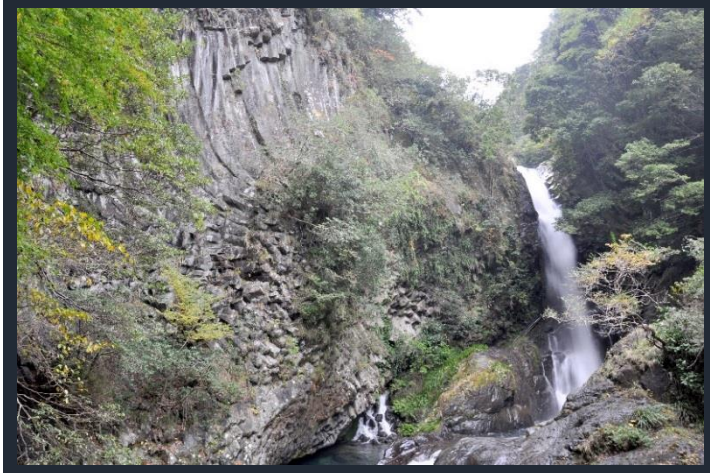
埼玉県出身。中学生の時に、「宗教入らない教」に改宗。好きな言葉は「あれ、誰か牌いじった？」。メンタンピンが得意。数年前に温暖な伊豆へ移住。
全国の滝を巡るのが趣味であるため、滝のジオサイトが好き。伊豆半島内では、浄蓮の滝と神洞滝が気に入りである。

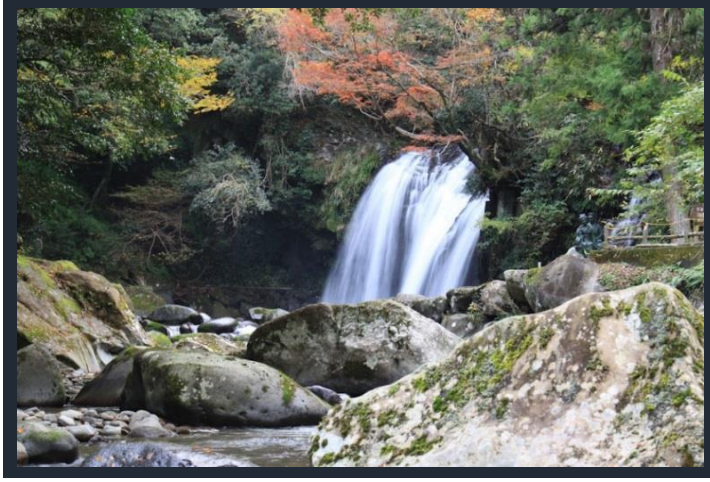
チャクラバルティー・アビック　専任研究員 [1]

インド生まれで、2007 年から日本にいます。立命館アジア太平洋大学で修士課程及び博士課程を修了し、2012 年の 9 月に博士号を取得しました。自然と人間社会の関係の変化、河川流域の環境、エコツーリズムと、最近では、特にジオツーリズムです。今伊東市に住んでいます。私にとって≪ジオパーク≫とは、大地の自然と振り合い、自然と人間社会の絆を再発見できる場所です。また、多様性に富んだ植物、動物なども支える基盤でもあります。伊豆半島は、大都会である東京の近くにいながら、美しい自然と山、森、水の郷です。これから伊豆半島の魅力をさらに探検していきます！

[1] ニュースレッター編集者

伊豆半島ジオパークおすすめスポット





かわづななだる

河津七滝

河津七滝は、河津町にある 7 つの滝である。今から約 25,000 年前天城山の南にある登り尾火山の溶岩は、河津川の谷に流れ込んだ。その上を流れる河津川は、溶岩層を削り、七つの滝を作ったのである。美しい柱状節理が見える滝は、往復約 1 時間歩きコースで楽しめる。柱状節理と穏やかな滝を背景にした≪踊り子と私≫の撮影ポイントもおすすめ！川端康成の≪伊豆の踊子≫の舞台になった河津町は温泉に恵まれた場所であり、長く歩いた後やドライブの終わりに心身をリラックスさせるポイントとしても最適。河津川の下流では、2 月から咲く美しい濃いピンク色の≪カワヅザクラ≫の木々が立ち並び、花見が楽しめるきれいな遊歩道も整備されている。

柱状節理とは？

柱状節理（Columnar Joint）とは、マグマがゆっくり冷やされたときに生じる、規則正しい割れ目である。形として、五角形、または六角形が多い。